

「作図ソフトに関するアンケート」 結果サマリー

このたびは「作図ソフトに関するアンケート」にご協力いただきまして誠にありがとうございました。皆様のおかげをもちまして調査は無事終了いたしました。

簡単ではございますが、結果のサマリーをご報告させていただきます。本調査結果が、貴社のソフトウェア利用や導入を考える際のお役に立てば幸いです。

また、弊社ホームページ (<http://www.nikkei-r.co.jp>) にて、来月以降、他の調査も含めた結果をいくつかご紹介していく予定ですので、ご関心がございましたらご参照いただければ幸いです。

今後とも、調査実施の折にはご協力賜りますようお願い申し上げます。

2006年7月

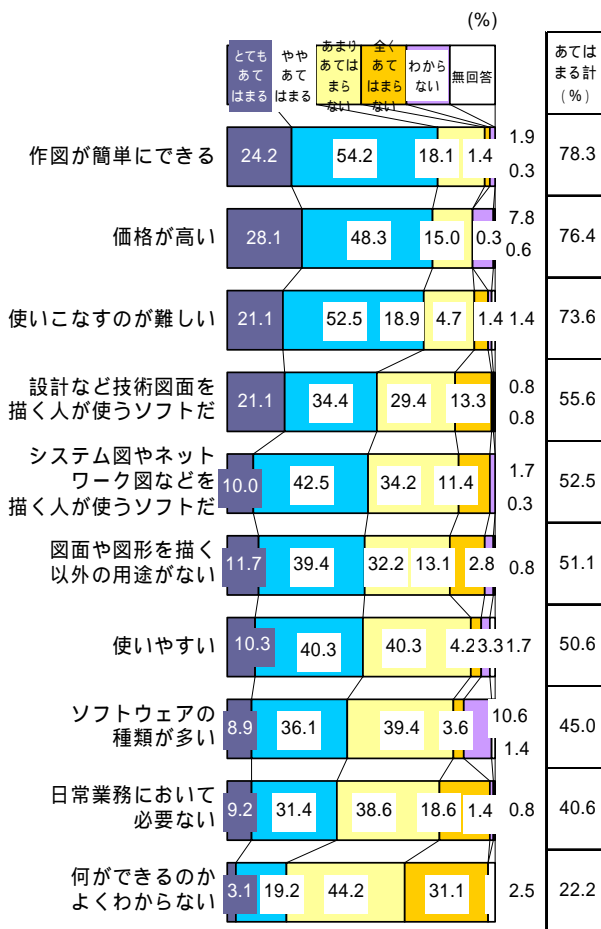
株式会社日経リサーチ

〒101-0048 東京都千代田区神田司町 2-2-7
パークサイド1ビル
TEL: 03-5296-5151 (担当: 野木、熊谷)
調査 No. 06-411-0041

【今回調査の実施概要】

- ・ 調査目的: 作図ソフトの認知・イメージや利用・活用状況、今後の利用意向、作図ソフト導入の際の重視点や導入過程などをおうかがいし、当該分野の市場動向の分析に資する。
- ・ 調査対象: 企業の情報システム部門のソフトウェアご担当者、および情報システム部門以外でご所属部署のPC管理をされていらっしゃる方
- ・ 調査方法: 質問紙郵送法
- ・ サンプルング方法: 弊社企業データベースより企業規模ごとに層化し、各層内で無作為抽出
- ・ サンプル数: 回収 386 社
- ・ 調査実施時期: 2006年4月13日~5月12日
- ・ 調査地域: 全国
- ・ 調査実施: 株式会社日経リサーチ

図4 作図ソフトのイメージ (n=360)



ています。また「使いやすい」については肯定・否定がほぼ半々に割れています。このことから、作図ソフトの操作性については、評価が厳しくなっています。

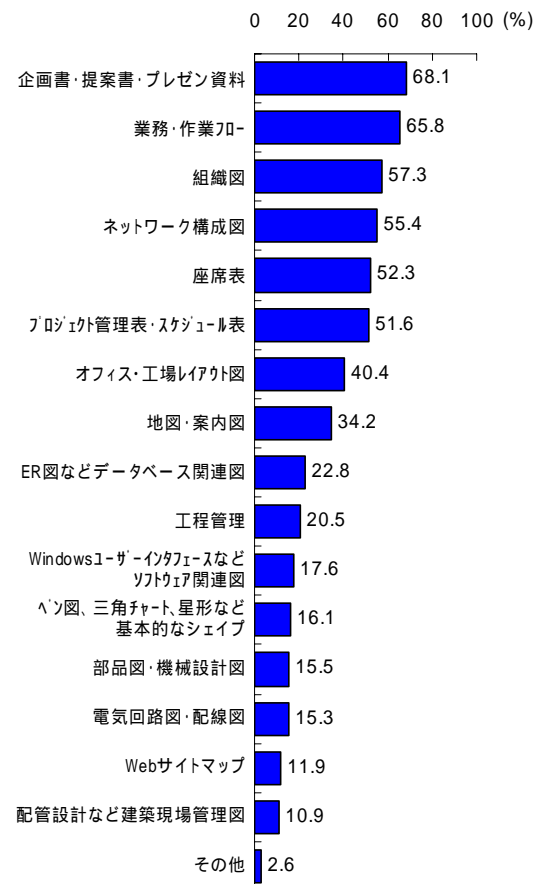
これらのことから、作図ソフトに対しては、“手描きや、他のジャンルのソフトを使って作図するよりはもちろん早くきれいにできるのだろうが、ソフトの操作そのものを覚えたり、自分の描きたい図がすぐに描けるように使いこなしたりするのは大変ではないだろうか” というような感覚をお持ちの方が多く見受けられます。

あまり知られていない用途でも、作図ソフトが業務に有効に活かせる可能性

それでは、作図の実態や作図ソフトを活用する具体的な場面についての認知を検討してみましよう。

まず図5では日常の業務における作図の実態を見たものです（回答者ご自身または部署で行う作図）。代表的な作図ソフトの利用パターンを16項目提示し、それに対する実態を見てみました。

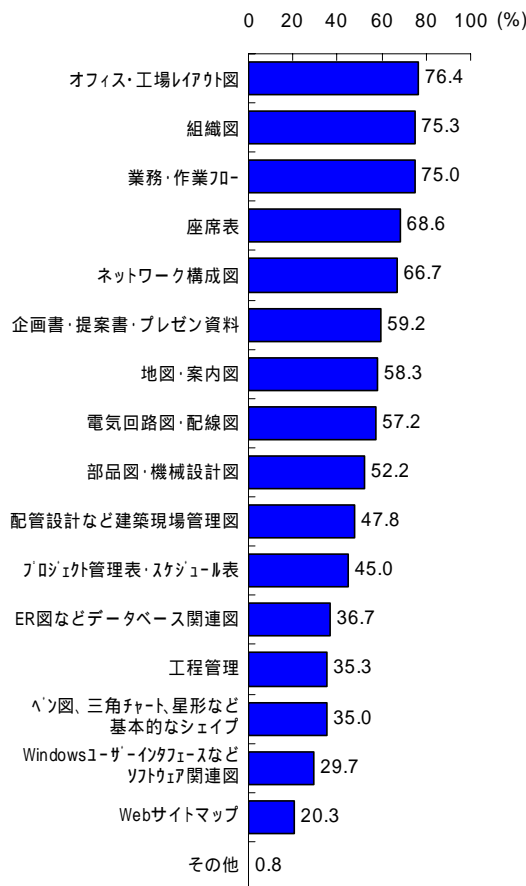
図5 日常の業務で行う作図作業 (N=386)



上位項目に挙がったのは「企画書・提案書・プレゼン資料」（68.1%）、「業務・作業フロー」（65.8%）、「組織図」（57.3%）といった作業で、これらは業種や部門を問わず広く行われています。「ネットワーク構成図」（55.4%）も情報システム部門をはじめとして、作図ソフトの需要が高い用途と言えるでしょう。以下、「座席表」（52.3%）、「プロジェクト管理表・スケジュール表」（51.6%）が5割を超える高い用途でした。

続いて次ページ図6では、図5で見た各用途について、作図ソフトで作成することが可能であることをご存知だったかどうか尋ねた質問の結果です。

図6 作図ソフトでできる作業の認知 (n=360)



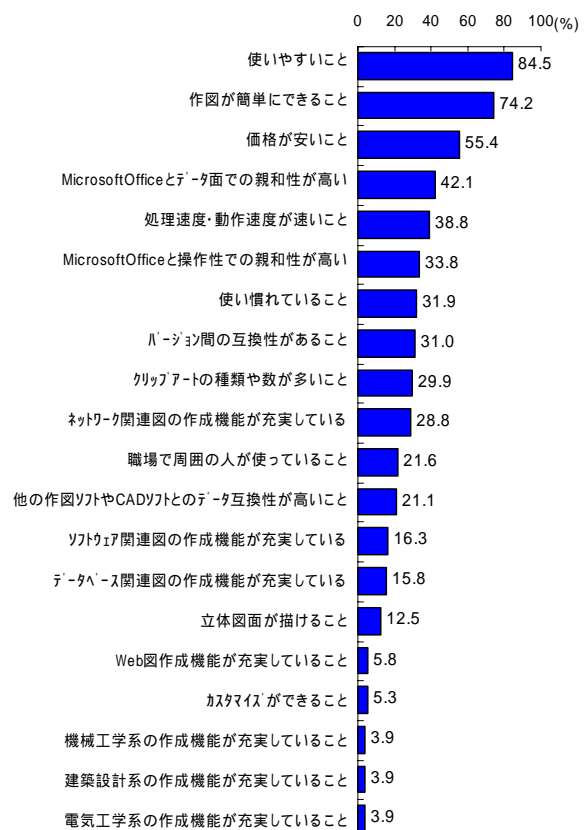
多くの項目で、図5で見た日常業務で行っている作図作業のスコアを上回り、様々な用途への認知が見られますが、利用可能性は知っていても、実際に作図ソフトを利用していない作業も多いかと思われます。また、図6では「プロジェクト管理表・スケジュール表」や「工程管理」など、業種・部門をあまり問わずに広く使えそうな用途の認知度も低くなっていますが、作図ソフトの中には、単に図形を描画するのみならず、図に関連情報を埋め込んだり参照したりする機能を備えたものもありますので、そうした新たな利用可能性を考えることも業務に有効かもしれません。

操作性や他ソフトとの連携が作図ソフト評価の鍵

それでは実際に作図ソフトに対して重視する点とはどのようなことでしょうか。図7は何らか

の作図をすると回答した人に、重視点を尋ねた結果を見たものです。

図7 作図ソフト選択の際の重視点 (n=361)



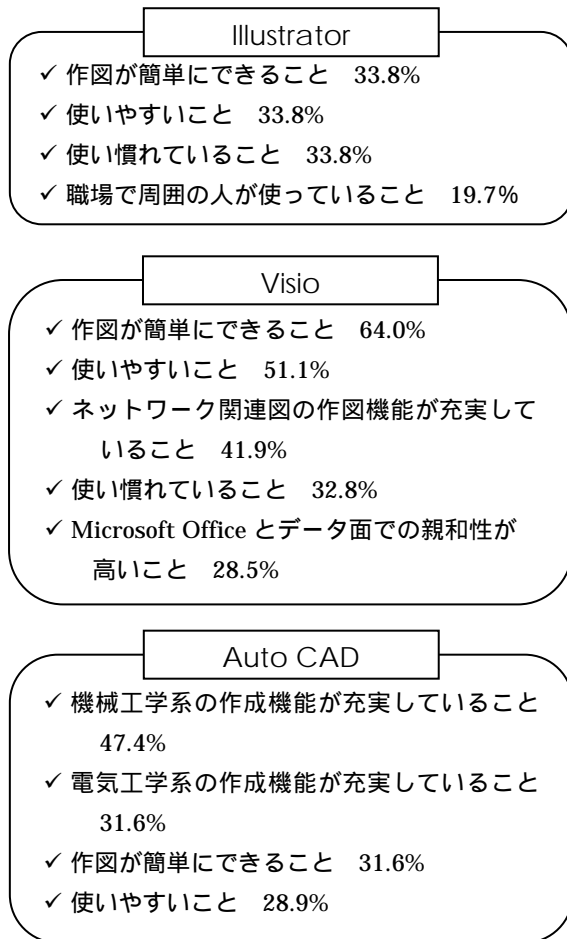
上位2項目(「使いやすいこと」(84.5%)、「作図が簡単にできること」(74.2%))が突出しており、先ほど図4で見た作図ソフトのイメージでも挙がっていた操作性に関する部分は特に大きな要素となっています。

また、「Microsoft Office とデータ面での親和性が高いこと」「Microsoft Office と操作性での親和性が高いこと」の2項目も上位に挙がっており、Word や Excel といった他のポピュラーなオフィス系ソフトや、そのファイル・データとうまく連携できていることが重要なポイントのようです。これはユーザーの立場からもそうでしょうし、情報システム部門の方では社内の他部門でのユーザーのサポートという観点からも、中心となるオフィスソフトとのシームレスな連携のできる作図ソフトが求められていると言えるでしょう。

さらに、具体的に代表的な作図ソフトについて、

「利用している」と回答した方の主要な利用理由を見てみましょう（表8）。

表8 主要作図ソフトの利用理由(上位項目)



どのソフトでも「作図が簡単にできる」「使いやすい」など、図7で見た一般的な重視点が上位に挙がっています。中でも「Visio」はこの2項目の評価が他ソフトに比べても特に高くなっており、また、マイクロソフト社製であることから「Microsoft Office とデータ面での親和性が高い」の評価もあり、総じて操作性面で高い評価となっています。

「Illustrator」(アドビシステムズ社)では、「使い慣れている」「職場で周囲の人が使っている」などが続き、安心して使えるイメージが上位に来ています。

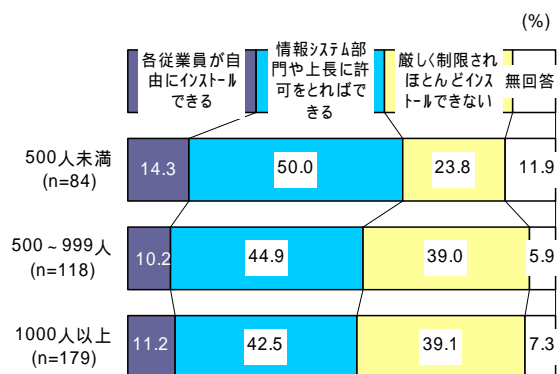
「Auto CAD」(オートデスク社)では、「機械/電気工学系の作成機能が充実している」という、

より専門的・技術的な作図面での機能評価が他ソフトより突出しています。

情報システム部門などの許可があれば導入可能になるケースが多い

それでは、各ユーザーがいろいろな理由から作図ソフトを導入してほしいと思ったとした場合、実際に社内のPCにインストールすることはどの程度可能なのでしょうか。この結果が図9です。ここでは社員数をもとに500人未満、500人～999人、1000人以上、の3グループに分けての結果を載せています。

図9 作図ソフト導入の自由度(社員数規模別)



全体に「情報システム部門や上長に許可を取ればできることが多い」という回答が最も多くなっています。500人以上の企業になると、導入は「厳しく制限され、情報システム部門が推奨するソフト以外はほとんどインストールできない」という割合も増え、情報システム部門等の判断が大きくなっています。

ここまで見てきたように、作図ソフトも単なる図形描画といった枠を超え、それ自体でも様々な用途に使いえたり、他のオフィス系ソフトとの連携もより強化されたりしていくものと思われます。ソフトウェアへの投資を考える際、作図ソフトの可能性についてさらに検討してみるのも、業務に有効であるかもしれません。